

## 「答申案」に対する各委員の意見について(Ⅱ)

## ■答申にあたって・基本理念

	<p>【石原委員】</p> <p>○未来への危機感について</p> <p>「答申にあたって」のページに書くべきか「Ⅱ基本理念」に書くべきか分かりませんが、今回の審議会がなぜこのように目的を絞り、目当てを整理し今までと違った重点性の高いビジョンにしているか、そしてなぜ今回からビジョンが5年になったのか、教育は本来普遍的であるにも関わらずなぜ流動的で教育の先が見えないのか、それらの「背景」をきっちり書き込むべきではないかと感じた次第です。</p> <p>今までとは違う教育を取り巻く「何か」を委員・事務局とも感じており、その審議の結果が今回のような力が入ったビジョンに結び付いたのではないかと思ったりしています。</p> <p>「Ⅱ基本理念」の項で、「科学技術の進歩や国際化・情報化の進展、少子化の進行、価値観やライフスタイルの多様化など、社会は急激に変化しています。」と記載がありますが、この表記そのものは10年前やそれ以前と変わらない表記で、未来に対する危機感はあまり感じられません。</p> <p>ビジョンの策定においていたずらに危機感を煽ることを良しとは思いませんが、ただ今回このように変わり、またビジョンを5年にしたこと背景は、ただ単に教育委員会制度が変わるからだけではないと思います。</p> <p>教育委員必携には「我が国が活力ある国家として発展するためには、次世代を担う子どもたちがたくましく心豊かに成長することが大切であり、かつ豊かな『未来』を切り拓いていける能力の育成を図らなければならない」と記されています。しかし、急激な少子高齢化や財政再建、貿易収支不均衡、国際政治バランスの流動化など、国や地域を取り巻く環境はますます厳しさを増しており、その『未来』には多くの課題を抱えているのが現状です。</p> <p>1 明らかに私たちが今まで社会人として生きてきた数十年と、彼らがこれから社会人として生きていく数十年はまるで違うものになるのです。</p> <p>彼らに到来するそのような『未来』を教育の力で切り拓いていくためには、ものすごい努力を必要とします。単なる総花的な施策だけではダメで、抜本的な見直しや改革が求められているような気がします。</p> <p>「答申にあたって」の最終段落に記載されていましたが、「先生方と想いを共有する中で実行されなければ意味がない」とありますが、まさに現場の先生に、彼らのそのような『未来』への危機感をどれだけ共有できるかが、今回のビジョンの重要なポイントになるのではないかと感じています。</p> <p>先生方も含めて我々が過ごしてきた「社会を生き抜く力」と、子どもたちがこれから身に付けなければならない「社会を生き抜く力」はまるで違う次元のレベルだと痛感していますが、この現実・厳しさが果たしてどれだけ共有されているのでしょうか。</p> <p>昨年6月にアメリカの国家情報会議は、2030年に先進国で最も不安定な国が日本だと結論付けました。急速な高齢化と人口減少で、日本が長期的に経済成長を続けていくことは不可能で、2025年までに年金暮らしの高齢者1人を労働人口2人で支える構図となります。高齢者福祉に国家予算を取られると別の分野への予算の割り当てができなくなり、国家が弱体化していきます。私はその通りだと思っています。今の延長上の生活など、絶対に続きません。</p> <p>2030年とは、たった16年先の話です。いま30代の人間が50代になって、様々な組織の幹部をやっている頃ですが、このときに果たしてどういう社会が待ち受けているのでしょうか。私たち審議委員は、もう少し子どもたちに到来する『未来』への危機感に敏感になってもよいのではないかと思います。</p> <p>したがって、今回のビジョン策定を機にそのような踏み込んだ記述があってもよいのではないかと強く感じている次第です。</p>
2	<p>【土居委員】</p> <p>「答申にあたって」を読まずに基本理念だけを読む人にとっては、基本理念の「世界」の捉え方が不十分になるのではないかと。「答申にあたって」の記載内容の繰り返しになってもいいので、もう少し詳しく述べた方がよいのではないかと。</p>
3	<p>【藤田委員】</p> <p>「基本理念」の記載内容に「ふるさと」という言葉を入れなくてよいか。</p>

## ■人間力

4	<p>【土居委員】</p> <p>「(1)自尊心・思いやり・規範意識」の「今後の方向性」(14P) 『〇全ての子どもたちが「まるごと」大切にされる学級・学校づくりを推進すること。』を追加してはどうか。</p>
---	--

## ■家庭教育の役割

5	<p>【石原委員】</p> <p>○家庭の役割について</p> <p>図3に「しっかりほめる・叱る」と「話を聞く」と「生活リズム」と「目標意識・キャリア教育」の話は書いてありますが、なにか通信簿の生活欄に書くような内容が記載してあり、それ以外の深みがありません。</p> <p>私の所感ですが、基本的に家庭教育で大切なことは4つの『し』だと捉えており、すなわち「しつけ」「しきたり」「しくみ」を教え、「しこう」を深めさせることだと感じています。</p> <p>ここでいう「思考」とは、学習思考力のことではなく、道徳や哲学も含めて人生をどう生きるかという「思考」のことを指します。生き方・死に方にもつながる部分であり、これは学校では倫社などの科目はあるものの、深くは教えてくれません。家庭で保護者に影響を受けて身に付けるものであり、このビジョンで指す「生きる力」「人間力」のベースとなるものです。「生きる力」のベースですから、家庭教育の重要な要素として欠かせません。</p> <p>また「しつけ」「しきたり」「しくみ」についても同様に、「生きる力・社会性」のベースであり、家庭教育の中の重要な要素です。</p> <p>「躰け」は箸の持ち方からお辞儀の仕方、立ち居振る舞いに資する部分で、日本人らしさの根源でもあるところですが、このしつけの重要性は図3のどこにも記載されていません。施策でふるまい向上が取り上げてありますがあくまでも基本は家庭で教育されるべきことです。また県のふるまい向上運動は対象となる範囲が広く「どの施策もふるまいに通ずる」という考え方ですが、ここでいう躰けはもう少し狭義の意味です。</p> <p>「しきたり」というのは差別用語の「掟」という意味ではなく、「躰け」にも近い概念ですが、躰けよりより社会性が広がった概念だと思います。社会ルールと置き換えてもよいかもしれません。挨拶の口上、しゃべる順番、式典の次第、目上の人間を尊重する配列など集団の秩序を保たせるうえで、法律にはないが守るべきルールであり、これも学校では教えてくれません。むしろ家庭や地域で事前に教わってこなければいけない分野ですが、最近は親の方が分かっていないかもしれません。ただ図3にはないですが、「生きる力」を支える重要な要素だと感じています。</p> <p>「しくみ」というのは「世の中の仕組み」という意味です。自治や規律・ルール、納税と社会還元、評価と立場など「人間が集団で生きていくためにどのような仕組みを取り入れて機能させているか」という概念であり、こうした仕組みに対する理解が育まれていなければ、社会に対する感謝も生まれませんし、どう生きるべきかという観念も漠然としたものになってしまうのではないのでしょうか。仕組みへの理解が深まらなければ、例えば「人権教育」においても「なぜ社会は成り立ち、なぜ人権を尊重することが大切か」というところまで理解が深まらないのではないかと思う次第です。</p> <p>社会と関わっていくうえで、家庭で身に付けるべきこの4つの要素は、学校教育では教わりませんが、今回の「教育ビジョン」を目指していくうえで、大変重要なポイントであると思います。</p> <p>したがって表現を変えても構いませんので、家庭教育のどこかに記載できないものかと思ったりします。ご検討をよろしくお願いします。</p>
---	---